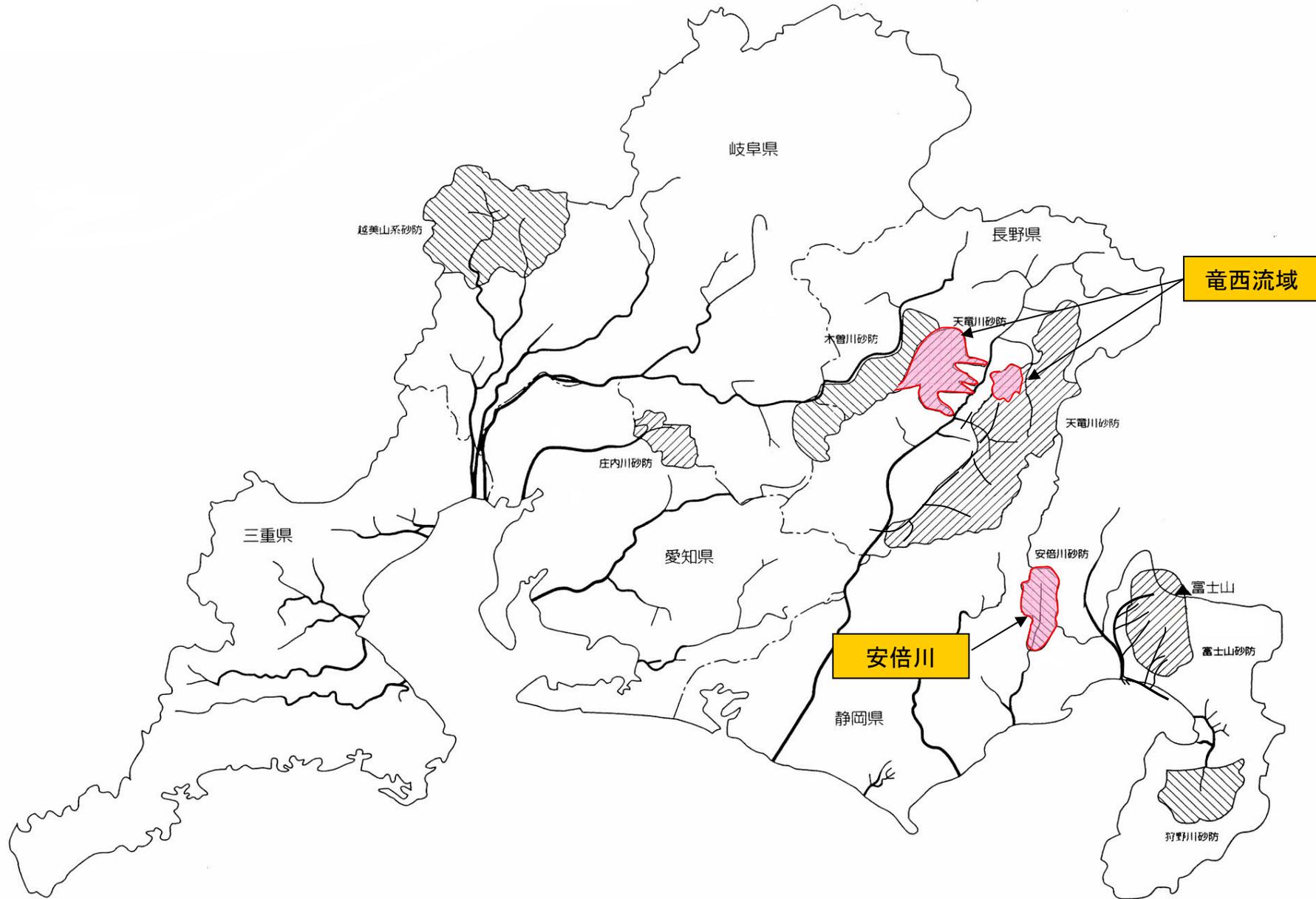


# 再 評 価 対 象 砂 防 事 業 概 要

平成20年12月16日

河 川 部

# 砂防事業再評価対象水系位置図



## 再評価対象水系・幹川一覧表（砂防事業）

水系名	事業進捗状況	社会経済情勢	費用対効果 B/C	再評価理由	対応方針
安倍川	<p>安倍川砂防流域では、生産・流出する土砂に対して、砂防えん堤等による土砂の抑制・調節対策を実施している。</p> <p>これまでに、砂防えん堤19基、床固工61基等が完成しており、現在、大谷山腹工、中尾沢砂防えん堤等の整備を継続している。</p>	<p>安倍川砂防流域には、梅ヶ島・大河内地区が位置し、河川沿いには、県道梅ヶ島温泉昭和線などの交通施設、静岡市の公共施設等が整備されている。観光施設としては梅ヶ島温泉地区があり、重要な観光資源となっている。また、下流域には、東海道新幹線、東名高速道路、国道1号などの重要交通網が集中し、地域社会・経済の中心である政令指定都市である静岡市街地が位置している。</p> <p>流域自治体では、「安倍川改修促進期成同盟会」が組織され、直轄砂防事業による土砂災害対策の要望が提出されている。</p>	<p>全体事業 3.5 残事業 3.4</p>	再評価実施後5年経過した事業	継続
竜西流域	<p>竜西砂防流域では、生産・流出する土砂に対して、砂防えん堤、床固工群等による土砂の抑制・調節対策を実施している。</p> <p>これまでに、砂防えん堤29基、床固工67基等が完成しており、現在、与田切床固工群、片桐松川床固工群等の整備を継続している。</p>	<p>竜西砂防流域には、駒ヶ根市、宮田村、飯島町、松川町が位置し、中央自動車道や国道153号、JR飯田線などの交通施設が整備されている。また、流域内には駒ヶ岳ロープウェイや与田切公園、信州松川温泉清流苑等の観光施設の他、ウイスキー工場やアルミ建材、ハイテク研究所等の先端技術産業が点在している。また、天竜川本川沿いには、伊那谷の中核都市である駒ヶ根市街地が位置している。</p> <p>流域自治体では、「天竜川上流直轄砂防事業促進期成同盟会」や「天竜川上流治水促進期成同盟会」が組織され、直轄砂防事業による土砂災害対策の要望が提出されている。</p>	<p>全体事業 3.0 残事業 2.9</p>	再評価実施後5年経過した事業	継続

平成20年度 継続箇所 砂防事業の評価書（原案）

事業名	安倍川（砂防事業）		
水系名・河川名	安倍川	事業主体	静岡河川事務所
所在地	静岡県静岡市		
事業着手年度	昭和12年度		
再評価実施理由	再評価実施後5年経過した事業		
実施内容	砂防えん堤、床固工、護岸工等		
全体事業費	約1,383億円		
事業の目的	<p>安倍川砂防流域は、日本三大崩壊地の一つである大谷崩れをはじめとする多くの崩壊地が存在している。また、大谷嶺などの2000m級の高山から一気に、駿河湾に注ぐ急流河川で、溪床には崩れた不安定土砂が厚く堆積しており、洪水時に大量の土砂が流出する危険性を有している。昭和12年より、土石流及び上流域からの土砂の生産・流出にともなう下流域での洪水の発生等の土砂災害から、人命・財産等の被害を防止することを目的として、直轄砂防事業を実施している。</p>		
再評価概要	<p>1. 事業の必要性            (1) 事業をめぐる社会経済情勢等の変化            安倍川砂防流域には、梅ヶ島・大河内地区が位置し、河川沿いには、県道梅ヶ島温泉昭和線などの交通施設、静岡市の公共施設等が整備されている。観光施設としては梅ヶ島温泉地区があり、重要な観光資源となっている。また、下流域には、東海道新幹線、東名高速道路、国道1号などの重要交通網が集中し、地域社会・経済の中心である政令指定都市である静岡市街地が位置している。            これらから流域の土砂災害防止を目的とした本事業の必要性について変化はない。</p> <p>(2) 事業の投資効果  <math>B/C</math>（全体事業）＝土砂流出及び土石流による被害軽減額／計画全体事業費            ＝4,550億円／1,320億円＝3.5  <math>B/C</math>（残事業）＝土砂流出及び土石流による被害軽減額／計画残事業費            ＝855億円／267億円＝3.4</p> <p>(3) 事業の進捗状況            整備対象土砂量換算で約25%である。</p> <p>2. 事業の進捗の見込み            これまでに、砂防えん堤19基、床固工61基等が完成しており、現在、大谷山腹工、中尾沢砂防えん堤等の整備を継続している。ほぼ順調に整備が進んでおり、大きな支障となる事項はない。今後も自然環境等に配慮しつつ計画的に事業の進捗を図る見込みである。</p> <p>3. コスト縮減や代替案立案等の可能性            現地発生材の有効活用等により、コスト縮減に努める。</p> <p>○対応方針            本事業は継続する。</p>		

平成20年度 継続箇所 砂防事業の評価書（原案）

事業名	竜西流域（砂防事業）		
水系名・河川名	天竜川水系竜西流域	事業主体	天竜川上流河川事務所
所在地	長野県駒ヶ根市、上伊那郡宮田村・飯島町、下伊那郡松川町		
事業着手年度	昭和34年度（片桐松川） 昭和37年度（大田切川・中田切川・与田切川・新宮川）		
再評価実施理由	再評価実施後5年経過した事業		
実施内容	砂防えん堤、流路工、護岸工等		
全体事業費	約2,778億円		
事業の目的	<p>竜西砂防流域は、急峻な地形で風化しやすい花崗岩・変成岩を基盤とし、百間ナギ大崩壊地をはじめとする多くの崩壊地が存在している。溪床には崩れた不安定土砂が厚く堆積しており、洪水時に大量の土砂が流出する危険性を有している。昭和34年の伊勢湾台風や昭和36年の伊那谷災害等度重なる災害も発生しているためこれらを契機に、昭和34年より土砂災害から流域内の人家・資産を保全するため直轄砂防事業を実施している。</p>		
再評価概要	<p>1. 事業の必要性                  (1) 事業をめぐる社会情勢等の変化                  竜西砂防流域には、駒ヶ根市、宮田村、飯島町、松川町が位置し、中央自動車道や国道153号、JR飯田線などの交通施設が整備されている。また、流域内には駒ヶ岳ロープウェイや与田切公園、信州松川温泉清流苑等の観光施設の他、ウイスキー工場やアルミ建材、ハイテク研究所等の先端技術産業が点在している。また、天竜川本川沿いには、伊那谷の中核都市である駒ヶ根市街地が位置している。これらから流域の土砂災害防止を目的とした本事業の必要性について変化はない。</p> <p>(2) 事業の投資効果  <math>B/C</math>（全体事業）＝土砂流出及び土石流による被害軽減額／計画全体事業費                  ＝6,120億円／2,015億円＝3.0  <math>B/C</math>（残事業）＝土砂流出及び土石流による被害軽減額／計画残事業費                  ＝831億円／284億円＝2.9</p> <p>(3) 事業の進捗状況                  整備対象土砂量換算で約25%である。</p> <p>2. 事業の進捗の見込み                  これまでに、砂防えん堤29基、床固工67基等が完成しており、現在、与田切床固工群、片桐松川床固工群等の整備を継続している。ほぼ順調に整備が進んでおり、大きな支障となる事項はない。今後も自然環境等に配慮しつつ計画的に事業の進捗を図る見込みである。</p> <p>3. コスト縮減や代替案立案等の可能性                  現地発生材の有効活用等により、コスト縮減に努める。</p> <p>○対応方針                  本事業は継続する。</p>		